

令和 8 年度第 1 回 FD 研修会が開催されました

8 月 5 日、今年度第 1 回 FD 研修を開催しました。国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター特任研究員の船守美穂様をお迎えし、「即時オープンアクセス義務化の背景と課題」をテーマとしてオープンアクセスに関する基本的な考え方について解説いただきました。講演では国内外のオープンアクセスの動向や他大学におけるオープンアクセス化の取り組みを紹介いただき、本学における研究論文や研究データのオープン化の実践について助言を頂戴しました。

【日時・場所】2026 年 8 月 5 日（水）5401 会議室 + Zoom

【教職員参加者数】27 名

出版社側のビジネスモデルと合わせて学術論文のオープンアクセス化には以下の種類があることについて解説をいただきました。即時オープンアクセス義務化に対応するため、オープンアクセス化の種類によって研究者が行うべき作業や研究機関の支援体制について解説をしていただきました。

グリーン OA

- 学術雑誌に載った論文を、機関リポジトリで著者自身が公開するオープンアクセス化の方法です。
- 学術雑誌は購読型（読者が購読料を負担）のままで、著者自身が論文を機関リポジトリで公開することでオープンアクセス化します。
- 論文投稿時に出版社による公開禁止期間(エンバーゴ)について確認が必要です。

ゴールド OA

- 論文の掲載料（APC）を著者が出版社に APC を支払い、論文をオープンアクセス化する方法です。
- 掲載された論文は購読料なしで誰もがアクセスすることができるため、多くの研究者に論文を読んでもらうことができます。
- APC の金額は学術雑誌によって異なりますが、論文 1 本につきおよそ 30 万円程度の費用負担が著者側に求められます。

ハイブリッド OA

- 購読型の学術雑誌の中で、個別論文だけオープンアクセス化する方法です。
- 学術雑誌は購読型としますが、著者 APC を支払った場合に個別論文を無料公開します。
- APC の支払いはオプションであり、投稿時に著者自身がオープンアクセス化を選択できます。

ダイヤモンド OA

- 読者にも著者にも料金を課さないオープンアクセス化の方法であり、APC 高騰への対案として注目されています。
- 日本では J-STAGE といったプラットフォームを国が提供しています。

研修会の参加者からはグリーン OA の際に必要なエンバーゴの確認や研究リポジトリ登録について学内の支援体制に関しての質問が上がり、オープンアクセス化の際に必要な費用補助など活発な議論が交わされました。また、今回の研修会は図書館との合同開催のイベントということで後半のセクションでは田邊図書館委員長から本学におけるオープンアクセス化の取り組みやデータマネジメントポリシーの策定についての実務的な説明をいただき、参加者の教職員との間で意識共有されました。



参加者アンケートより（一部抜粋）/Feedback

【1. 今回の授業の感想をお聞かせください。】

- とても実用性が高い研修会でした。研究成果や研究データの即時公開は研究者にとって重要なテーマですが、まだ解釈をよく分からない部分もありました。今日の研修会を通じて大事な情報を知ることができました。大変勉強になりました。ありがとうございました。
- オープンアクセス、オープンサイエンスが求められるようになった背景（目的）が分かり、これらを「利活用」していくための在り方を検討していく必要性が良く理解できました（私も考えていきたいと思います）。まずは、本学で実施（対応）できる管理を活用していきたいと思います。
- 研究成果の公開について、諸外国と日本のシステムを対比してご説明いただき、とても分かりやすかった。鹿児島大学における研究成果のデータベース化システムも独自性があり、興味を持った。また、競争的資金を用いた研究成果のオープンアクセス義務化について、本学で行う手続きのステップについてもその概要を理解することができた。
- オープンアクセスについて理解を深めることができました。2部構成で研究成果の公開や研究者の負担、大学としての支援体制など広く学ぶことができました。また、参加しやすい時期で良かったです。ありがとうございました。

【2. 今後開催してほしい研修会やご要望がありましたら御自由にご記入ください。】

- 論文投稿時の APC については研究者の負担が大きいため、Gold OA を推進するためには学内からの予算支援の拡充が必要と感じました。